

会社案内  
Corporate  
Profile • 2017

**OLYMPUS**<sup>®</sup>

Your Vision, Our Future

# Social IN

「Social IN」…それはオリンパスの経営理念。  
オリンパスの企業としてのあり方や使命、そして企業スピリットを表す言葉。すべての事業活動の基本となる理念です。  
オリンパスは1919年、顕微鏡を量産化し、疫学を通して広く国民の健康に資するという使命感から創業しました。その後も社会に受け入れられる製品を創り続け、その思いは「Social IN」へと結実しています。この経営理念に基づいて、これからも医療、科学、映像の各領域で、新しい価値を創造し続けることに力を尽くします。

## 経営理念

オリンパスグループは、  
生活者として社会と融合し、価値観を共有しながら、  
事業を通して新しい価値を提案し、人々の健康と幸せな生活を実現  
していきます。  
この考え方を「Social IN(ソーシャル・イン)」と呼び、すべての活動の  
基本思想としています。



## — 持続的成長のステージへ

代表取締役社長執行役員 **笹 宏行**

オリンパスは、1919年に顕微鏡事業で創業しました。顕微鏡の  
レンズ研磨技術は、「一子相伝風の秘術に近いもの」といわれ、  
その開発は苦闘の連続であった、と伝えられています。創業者が  
築いたこの光学技術こそが、当社の技術の原点。これが脈々と  
受け継がれ、カメラや内視鏡の技術へと発展しました。

社長に就任するまで、私は医療事業の開発やマーケティング  
に携わっていました。ありがたいことに、開発した製品によって患  
者さんが回復に向かう様子を目の当たりにしたことも、ご家族か  
らお礼の言葉をいただいたこともあります。そのときは思わず涙  
がこぼれ、「この道を選んでよかった」と心から思いました。

2012年の新経営体制のもと、経営・社員一同「One Olympus」  
という思いを胸に、現在まで信頼回復に努めてまいりました。そし  
て2016年春、将来の持続的発展・成長に向けて、中期経営計画  
を発表し、新たなステージへと一歩を踏み出しました。2019年に  
当社は創業100周年を迎えます。将来の持続的な発展に向け  
て、これからも世界の人々の健康・安心と心の豊かさの実現を通  
して、社会に貢献してまいります。

# “Business to Specialist” Company

“Business to Specialist” Companyは2016年4月からスタートした「2016経営基本計画」に規定された経営方針のひとつです。顕微鏡の量産化からスタートしたオリンパス。当社が培ってきた光学技術は、さまざまな分野の先端技術と融合しながら、常に新たな境地を切り開き、高品質な製品を生み出してきました。私たちは、専門性の高い顧客 (Specialist) のニーズに寄り添い、顧客の信頼を得ることで成長してきた企業です。これからも“Business to Specialist” Companyとしての強みを生かし、高い倫理感を持って、イノベティブマインドと高い技術開発力、卓越した業務品質により、今まで以上に顧客にとって価値あるパートナーであり続けたいと考えています。

## 経営方針

### “Business to Specialist” Company

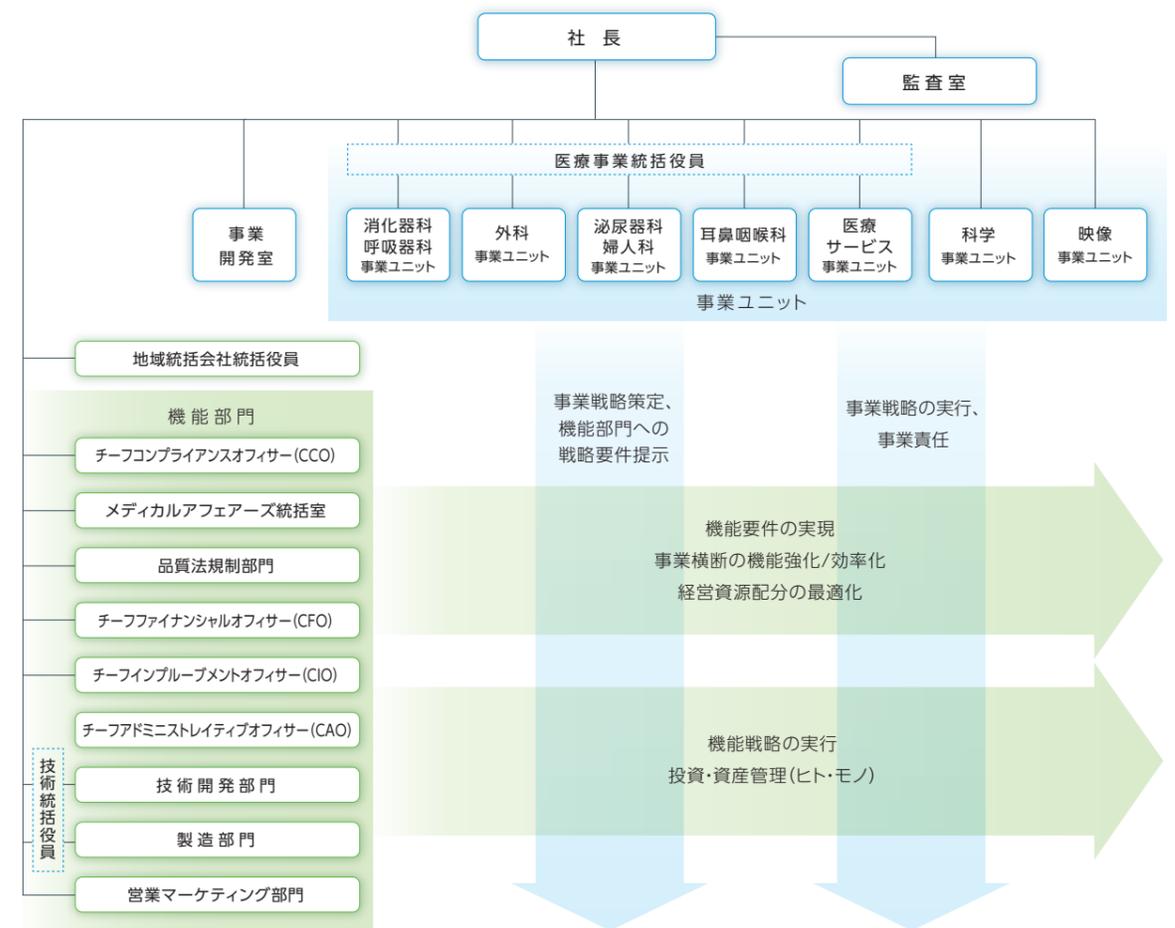
- ・ 専門性の高い顧客の要求、潜在ニーズを正しく理解し、的確なソリューションをスピーディーに提案・提供する。
- ・ 高い倫理観を持ち、イノベティブマインドと高い技術開発力、卓越した業務品質でこれを実現する。
- ・ 永続的な成長を通じて、すべてのステークホルダーの期待に高い次元で応えるとともに、良き企業市民として行動する。

### One Olympus

- ・ グローバル・グループベースで、価値観・戦略を共有し、経営資源を最大活用することにより、全社のパフォーマンスの最大化を図る。

# Management Structure

オリンパスの経営体制は、事業軸と機能軸をバランス良く融合させて全社経営資源の最大活用を目指す「マトリックス型」の事業運営です。第1階層の組織として、事業軸(縦)に7つの「事業ユニット」と事業開発室、機能軸(横)に9つの「機能部門」があります。「マトリックス型」事業運営では経営戦略に基づき事業ユニットが事業戦略を統括し、機能部門がその実現を担います。これにより、全社レベルで経営資源配分を明確にし、経営資源をタイムリーに活用、当社が有するポテンシャルを最大限に発揮します。



人と命を豊かにする技術とものづくり…。  
皆さまからの信頼回復に努めています。

## Compliance Commitment

コンプライアンスコミットメント

オリンパス経営陣は、  
いかなる時も法令および社会規範に従い、  
ステークホルダーの皆さまからの信頼の回復と、  
企業価値の向上に努めてまいります。

社会とともに持続的に発展するため、経営陣自らが法令および  
社会規範の重みを再認識し、オリンパスグループとして守るべき  
原則を共有し、正しいことを考え実行できる社風を醸成します。

これに反するような事態が発生したときには、原因究明、再発防  
止に努め、責任を明確にします。

そのために、さまざまなステークホルダーの皆さまとのコミュニ  
ケーションを深め、透明性の高い意思決定を行い、社会に新たな  
価値を提案するよろこびを実感できる組織に変革していきます。

そして、技術、品質、サービスで、社会に価値を提供するという  
原点に立ち返り、オリンパスグループ社員が一丸となって、人々  
の健康と幸せな生活の実現に貢献していくことを約束します。

代表取締役社長執行役員 笹 宏行

## コンプライアンス体制の見直し

### 経営陣のコンプライアンスに対する意識改革と 説明責任の明確化

経営陣がコンプライアンスコミットメントを宣言しました。  
全社員が社会の一員として持つべき意識・倫理観やその行動  
原理をあらためて問いただし、その上で指針となる「グローバ  
ルコンプライアンスポリシー」を制定しました。  
また経営陣は、コンプライアンスの推進状況を公表すると  
ともに、あらゆる局面で説明責任を果たします。

### コンプライアンス推進を強化する体制の整備、 コンプライアンス意義の醸成・徹底

コンプライアンス意識の醸成と企業風土改革のため、社外  
取締役を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、  
チーフコンプライアンスオフィサーを任命しました。  
また、社員の各階層におけるコンプライアンス教育を強化  
し、定期的に意識調査も実施します。

### 内部通報制度の拡充

内部通報制度を十分に機能させるために、社内の内部通  
報窓口のほか、社外にも内部通報窓口を設置するなどして、  
コンプライアンスヘルプラインを整備・拡充しました。  
また不正を知った者の内部通報義務を明確化しています。

2011年秋、オリンパスの歴史上、最大の危機といえる問題が発覚し、  
当社は多くの皆さまを傷つけ、その信頼や期待を損ないました。  
この危機を乗り越えるべく、当社は、第三者委員会による全容調査報告にもとづいて、  
「経営責任の明確化」と「再発防止に向けた体制の見直し」に取り組んでいます。

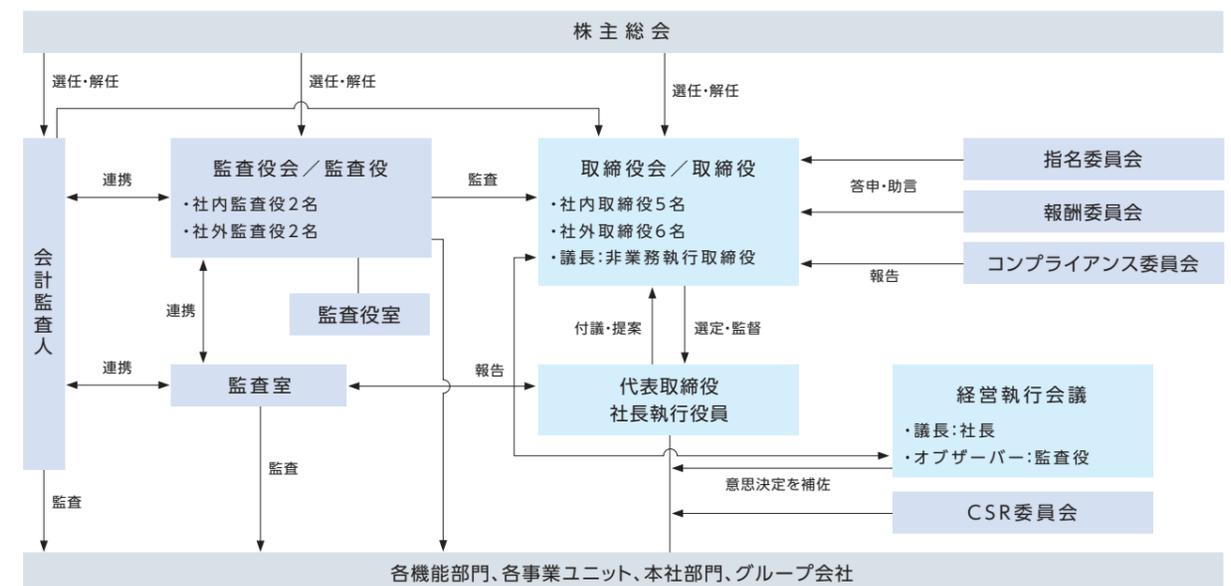
## コーポレート・ガバナンス体制の強化

### 経営の「執行」と「監督」を明確に分離

経営の「執行」と「監督」を明確に分離した新経営体制へ  
移行しました。  
取締役会構成員の過半数を独立性の高い社外取締役で  
構成し、議長は非業務執行取締役が務めています。また役員  
に対する指名委員会、報酬委員会を設置しました。

### 監督機関の権限や機能を強化

執行機関に対する監督機関の権限や機能を強化しました。  
過半数を社外取締役で構成する独立委員会を任意で設  
置できるようにしたほか、社長の最長在任期間、役付執行役  
員の担当部門における最長在任期間、および上限年齢を制  
定しました。



# Opto-Digital Technology をもとに価値ある技術を創造し、「未来」を実現していきます。

— Opto-Digital Technology が生むオリンパスの技術 —

顧客価値を生み出すワークフロー視点でまとめたコア技術群



## コア技術群マネジメント戦略

経営方針の“Business to Specialist” Companyを推進するため、技術開発部門では医療／科学／映像の3事業を支えるコア技術を抽出。これらを各事業のお客さまが製品を使用する際のワークフローで分類し、5つのコア技術群として整理・共通化しました。これによって、事業別に点在していたコア技術の水平展開を目指します。お客さまに新たな価値を提供するためのコア技術と、コア技術を支える基盤技術をつなぐ戦略を「コア技術群マネジメント戦略」と呼んでおり、基礎研究と商品開発の連携に欠かせないものです。

### I. アクセス技術群

お客さまが製品を手にとられて最初に行う操作、それは観察・検査対象や被写体に近づくための操作です。これをサポートする技術が「アクセス技術群」。たとえば、医療事業では内視鏡の細径化や、大腸内視鏡などの湾曲部の挿入技術、科学事業では工業用内視鏡の遠隔観察技術、映像事業では高速オートフォーカスや手振れ補正がこれにあたります。超小型アクチュエーターの活用などによって、診断・観察・撮影領域の拡大を目指します。



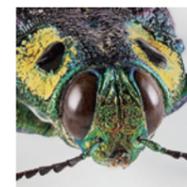
短時間で管腔深部への挿入実現を目指す技術



多彩な用途に対応した工業用内視鏡の先端アダプタ

### II. イメージング／センシング技術群

観察・検査対象や被写体に近づいたあとは、対象物を撮像し、画像化する技術が必要となります。これらの技術が「イメージング／センシング技術群」です。全事業に共通する4K・8K対応や3D画像をはじめ、医療事業では内視鏡の拡大観察や画像強調観察、科学事業ではリアルタイムの観察を実現するための細胞のライブ画像取得、映像事業では深度合成技術を用いたマクロ撮影の強化技術など。高精細画像や画像合成などを応用し、診断・観察・撮影機能の強化を図ります。



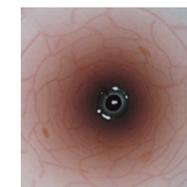
手前から奥までピン트가合う深度合成によるマクロ撮影



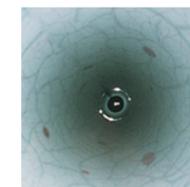
切れ目のない光の動きを記録するライブコンポジット(比較明合成)

### III. 認識／解析技術群

内視鏡、顕微鏡、カメラなどで取得した画像や映像から注目すべき箇所を認識し、解析する技術が「認識／解析技術群」です。医療事業では、特定の波長に絞った光を使用する画像強調観察(NBI)技術によって病変発見をサポートしたり、誤診率を低下させたりといった技術開発に取り組んでいます。科学事業では、非破壊検査における故障解析や欠陥解析のほか、生物顕微鏡では生細胞観察の画像解析に力を入れています。



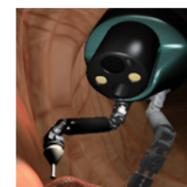
通常観察



NBI

### IV. 治療／処置技術群

医療事業では対象部位の処置や治療に関わる技術を保有しており、それらは「治療／処置技術群」に含まれます。内視鏡処置具のラインアップの拡充や外科手術用エネルギーデバイスの適用拡大のほか、手術支援ロボットによる術者負担の軽減や耳鼻科・泌尿器・婦人科への局所治療エネルギーデバイスの開発などに取り組んでいます。



消化管内腔にて自在な操作を実現する治療支援システム



処置性能を向上させたエネルギー処置デバイス

### V. レポート／エビデンス技術群

診断・治療のエビデンスや装置の使用記録に関わる技術が「レポート／エビデンス技術群」です。医療事業では医療の質の向上に貢献するために、内視鏡画像の記録や洗浄履歴などの検査支援の技術開発をサポートし、科学事業では大量データの保存やレポート作成を容易にするなどのソリューションの提供を目指した技術開発を行います。ICTの活用により、記録や情報共有を容易にし、お客さまの安全・安心と利便性の向上の両立を目指します。



医療の質の向上につながるICTの活用事例

## オリンパスには、新しい価値を創造するという 熱い思いが流れています。

### 医療事業 Medical

低侵襲な診断・治療に大きな役割を果たす消化器内視鏡、外科内視鏡、内視鏡処置具、超音波内視鏡や医療機関の業務効率化を目的とした業務支援システムなどの製品開発事業を展開して、医療現場をトータルにサポートしています。また、ウェブサイト「おなかの健康ドットコム」などの運営を通じて、生活者に直接、内視鏡医療やがんなどの病気の早期発見・早期治療に関する情報を提供する事業にも力を注いでいます。

● 医療 【内視鏡】	1950 【ガストロカメラGT-1】 (胃カメラ)	1964 ファイバースコープ付 ガストロカメラGTF	1978 日本で初めての 内視鏡洗浄機 EW	1985 ビデオ 内視鏡システム EVIS-1	2002 世界初のハイビジョン 内視鏡システム EVIS LUCERA	2005 小腸用カプセル内視鏡	2006 NBI搭載の内視鏡 ビデオスコープ システム EVIS LUCERA SPECTRUM	2012 内視鏡 ビデオスコープ システム EVIS LUCERA ELITE
								

ある医師の「患者の胃の中を撮影するカメラが欲しい」という思いに、オリンパスが応え、世界初の胃カメラ実用化に成功。

グラスファイバーを採用し、リアルタイムで胃内の観察が可能に。以後、診断および処置もできる器具として、内視鏡医療発展に貢献。

※実際のカプセルにはロゴが入っていません

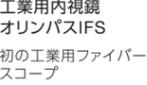
### 科学事業 Science

生命科学の先端分野では、次世代医療の実現に向けた研究が盛んです。オリンパスはこれらの現場に向けて、最先端の「イメージング」技術を持つ顕微鏡システムをお届けすることで研究を加速させています。さらに、研究と医療の最前線を支援し、広く社会に貢献しています。また産業分野では、各種産業機器やライフラインの保守管理に不可欠な非破壊検査機器、開発や生産現場で用いられる工業用顕微鏡や測定機を中心とした製品によって、人々の安全を守り、安心して暮らせる社会を支えています。

● 科学 【ライフサイエンス】	1974 高周波処置用電源PSD	1978 医療用 硬性内視鏡 事業本格化	2011 内視鏡統合 ビデオシステム VISERA ELETE	2012 統合エネルギーデバイス	2013 外科手術用 3D内視鏡 システム	2015 外科手術用 4K内視鏡 システム
						

● 科学 【ライフサイエンス】	1920 顕微鏡【旭号】	1927 顕微鏡【精華号】	1983 最高級写真顕微鏡 New VANOX AH2シリーズ	2004 共焦点レーザー 走査型生物顕微鏡 FV1000	2010 システム生物顕微鏡 BX3シリーズ	2012 倒立顕微鏡 IX3シリーズ
						

世界で初めてオートフォーカス機能を搭載。

● 科学 【ライフサイエンス】	1968 工業用内視鏡 オリンパスIFS	2001 工業用 ビデオ スコープ IPLEX	2006 非破壊検査機器 OmniScan IX	2007 工業用 ビデオスコープ IPLEX FX	2009 3D測定 レーザー顕微鏡 LEXT OLS4000	2012 オプトデジタル マイクロスコープ DSXシリーズ
						

### 映像事業 Imaging

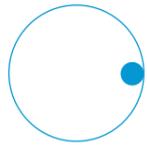
デジタルカメラやICレコーダーを中心に、常に新しい価値を感じていただける製品を提供しています。デジタル一眼カメラでは、小型軽量化、高い映像品質、扱いやすさを追求した「マイクロフォーサーズ規格」を策定し、推進。また、リニアPCMレコーダーやラジオサーバーなどは、お客さまの声に応じて機能を向上させた製品です。より多くの人々に撮る楽しみ、聴く喜びを…。その思いのもと、デジタルならではの映像／オーディオ表現の世界を広げ続けます。

● 映像 【カメラ】	1936 【セミオリンパスI型】	1959 ハーフサイズカメラ 「オリンパスペン」	1972 35mm 一眼レフカメラ 「オリンパスM-1」 (翌年OM-1と名称変更)	1973 35mm 一眼レフカメラ 「OM-1」	1991 コンパクトカメラ μ[mju:]	1996 デジタルカメラ C-800L /400L	2003 レンズ交換式 デジタル一眼レフ カメラ「E-1」	2009 マイクロ一眼 「OLYMPUS PEN E-P1」	2012 マイクロ一眼 「OLYMPUS OM-D E-M5」	2013 マイクロ一眼 「OLYMPUS OM-D E-M1」
										

世界最小最軽量の35mm一眼レフとして誕生。多くの独創的な発想がボディの小型化と静かなシャッター音を実現。脚光を浴びた。

小型軽量ボディと従来の1/4の価格\*を実現。女性にも扱いやすい設計で、家族の記録を残したい人々から歓迎され大ヒットを記録。  
※当社従来製品との比較

● 映像 【オーディオ】	1970 ズイコー パールコーダー	1992 当社初の 双眼鏡4機種	1997 D1000 当社初のデジタル レコーダー	2008 リニアPCM レコーダー LS-10	2010 ラジオサーバー ポケット PJ-10
					



### 消化器科呼吸器科事業

#### 内視鏡ビデオスコープシステム



観察性能、大腸内視鏡検査での操作性、内視鏡検査室の業務効率向上を追求した内視鏡ビデオスコープシステムです。がんなどの微細病変の早期発見に貢献する狭帯域光観察 (NBI) を従来製品から進化させ、対象臓器の奥まで明るく映し出すことで、詳細な観察をサポートします。

#### 超音波観測装置



#### 超音波ビデオスコープ



#### 気管支ビデオスコープ



#### 内視鏡洗浄消毒装置



#### 内視鏡処置具



処置具全景



生検鉗子

高周波スネア



高周波ナイフ



クリップ



バスケット



バルーン

### 外科事業

#### 4K内視鏡システム



4K技術を搭載した外科手術用内視鏡システムです。従来のフルハイビジョン映像に比べて、画素数が約4倍になり、高精細な映像での手術が可能となりました。また、豊富な色再現性により、微細組織(血管、神経、リンパ管など)の容易な識別をサポートします。



#### 外科手術用内視鏡システム



#### 3D内視鏡システム



#### エネルギーデバイス



外科手術の際に、血管の封止や組織の切開・剥離を行う製品です。高周波や超音波などのエネルギーを使用して、組織を高温にすることで、たんぱく質の変性を促し、血管壁どうしをつないで封止・切離を行います。

#### 内視鏡外科手術用処置具



Science  
科学分野

最先端技術を産業に応用、  
未来の扉を開くお手伝いをしています。

Imaging  
映像分野

デジタル映像、デジタルオーディオの世界に  
新たなクオリティーをお届けします。

泌尿器科婦人科事業

軟性尿管鏡



超小型CCDを先端に搭載しながら、極細径を実現した、尿管・腎盂向けの内視鏡です。ビデオスコープならではの高精細な画像で、観察や処置を行います。

軟性子宮鏡



レゼクトスコープ

肥大した前立腺などを削るように切除する製品です。



耳鼻咽喉科事業

デブリッター



慢性的な副鼻腔炎(通称:蓄膿症)などの治療で用いられる機器です。鼻の穴から内視鏡を挿入し、モニター画面を見ながら、デブリッターを使って生体組織の切除・吸引・切削を行います。

軟性内視鏡



硬性鏡



ライフサイエンス分野

システム生物顕微鏡



BX3シリーズ

倒立型リサーチ顕微鏡



IX3シリーズ

共焦点レーザー走査型顕微鏡



FV3000

教育用生物顕微鏡



CX23

培養顕微鏡



CKX53

産業分野

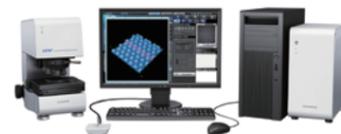
工業用顕微鏡分野

デジタルマイクロスコープ



DSXシリーズ

3D測定レーザー顕微鏡



LEXT OLS4100

測定顕微鏡



STM7

非破壊検査機器分野

工業用ビデオスコープ



IPLEX NX

超音波探傷器



EPOCH 650

蛍光X線分析装置



VANTA

デジタルカメラ分野

デジタル一眼カメラ

マイクロフォーサーズシステム規格の開発により、フィルムカメラ時代の名機「ペン」[OM]シリーズをデジタルカメラとして蘇らせた新世代マイクロ一眼[OLYMPUS PEN][OLYMPUS OM-D]シリーズなど、撮る喜び、写真の楽しさをあらゆる人にお届けしています。また、厳格な品質基準をクリアした交換レンズ[ZUIKO/M.ZUIKO DIGITAL]は、高い描写力を誇ります。



OLYMPUS OM-D E-M1 MarkII

OLYMPUS OM-D E-M5 MarkII

OLYMPUS PEN E-PL8

コンパクトデジタルカメラ

最大水深15mでの撮影も可能な防水・防塵モデルの[TG-5]、GPSをはじめ複数のセンサーと超広角レンズを搭載した[TG-Tracker]など、どんなシーンも撮り逃がしません。



TG-5 Tough

TG-Tracker

オーディオ・双眼鏡分野

ICレコーダー/ラジオサーバー/双眼鏡

簡単操作で使いやすいエントリーモデルから、USB端子・高音質マイク・音声ガイドなど用途に応じた高機能タイプ、「原音」にこだわったハイスペックリニアPCMレコーダーまで、さまざまな用途に最適な製品を提供しています。



LS-P2

V-863

VP-15

8×21 RC II WP

きょう しん  
強靱な製造現場と、それを支える優れた生産技術。

ものづくりのDNAが高品質のオリンパス製品・サービスを支えています。

創業以来、ものづくりのDNA(遺伝子)を受け継いできたオリンパス。  
そのDNAを未来に引き継ぎ、次代のものづくりを提案・実現するのが、  
製造部門の使命です。ナンバーワンの生産技術開発と、製造の現場力を  
継続的に高め、企業力を飛躍的に伸ばしていきます。

ナンバーワン技術への挑戦

レンズ加工システム

レンズは長い間、職人技を持つ匠の技能に頼って加工されてきました。しかし、大量生産や品質の安定化、コストダウンの要求が高まり、レンズ加工も自動化が切望されるようになりました。

ただ、市販のレンズ加工機はオリンパスの求める精度を満たす設備(機器)ではありませんでした。そこで当社は他社に先駆けて、レンズの自動加工システムの自社開発に挑戦しました。研磨効率を高めるための研磨用の砥石の製作、カン・コツ作業の定量化を重ねた結果、高精度な加工条件を再現することに成功したのです。

光学機器は、現在も日々進化しています。レンズに求められる精度やコストの要求レベルはますます高くなっています。これからも、生産技術に携わる技術者によってレンズの自動加工システムは進化し続けるでしょう。オリンパスのレンズ加工技術への取り組みに終わりはありません。



レンズ加工システムOLS

内製化技術開発

「世界一の医療用内視鏡や処置具をつくらう」。市場に部品や設備がなければ、自社内で開発を進めて、独自の製品をつくり上げてきました。この信念こそ、オリンパスの内視鏡が世界中のドクターに受け入れられているゆえんなのです。

製造現場には、「キーパーツは自分たちでつくる」という意欲がみなぎっています。ものづくりに携わる人の思いが、他社の追随を許さないオリンパスの内視鏡や処置具の技術を支えています。



内視鏡の操作部(左)と先端部(右)

顧客ニーズにこだわる

防水カメラ

1986年、オリンパスは世界で初めて生活防水機能を備えた全自動コンパクトカメラ「AF-1(愛称:ぬれてもピカソ)」を発売しました。当時、不可能だと思われた生活防水の機能を確立したことで、ヒット商品となりました。

これらの防水機能の実現には、カメラの設計はもちろん、防水ゴムなどの部品選定や水漏れチェックの試験などの試行錯誤がありました。しかしながら、ものづくりに携わるメンバーの「生活防水機能付きのカメラを低価格でお客さまに届けたい」という思いが、世界初への原動力になったのです。またこのカメラによって、製造の現場にもものづくりの技術を生み出す喜びが根づきました。

防水技術はその後の「μシリーズ」に受け継がれ、現在では水深15mでも撮影可能な「STYLUS TG-5 Tough」へと進化しています。そして、「防水カメラはオリンパス」といわれる不動の地位を築いています。

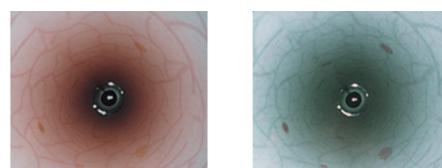


TG-5 Tough

光学多層膜技術

オリンパスは、ガラスなどの基材に特定の波長の光だけを通す「光学フィルター」の内製化に取り組んでいます。研究者のニーズに応えるため、科学分野から検討が始まったこの技術は、今では医療分野へと広がりを見せています。

そのひとつである医療用内視鏡の狭帯域光観察(NBI)は、がんなどの微細病変の早期発見に貢献しています。光学機器メーカーのトップであり続けるため、これからも光学多層膜技術を磨き続けていきます。



光学フィルター通常光(左)とNBI(右)

品質でブランドをつくる

内視鏡のリペアサービス(米国サンノゼ)

人体に挿入して使う内視鏡は、少しの動作不良が医療事故につながる可能性があります。そのため、修理完成品の品質にも新品と同等のものが求められます。オリンパスは、患者さんが世界のどの地域にいても安心して内視鏡検査・治療が受けられるように、業界トップの修理サービス体制を整備してきました。

代表例が米国カリフォルニア州にある世界最大の内視鏡修理センター「サンノゼ ナショナルサービスセンター」です。広大なサービスセンター内では、約250人が日本の内視鏡工場の組み立て工程と同水準の修理作業を行っています。

現在、オリンパスのサービス拠点は世界6大陸に200カ所超。医療事業のサービス機能が主管するグローバルな「サービス品質診断」を通じ、どの地域でも最高のサービスを提供していきます。ものづくりの「品質」がオリンパスの内視鏡事業を支えています。



サンノゼ ナショナルサービスセンター

ライセンス制度

医療機器は人体にじかに接触するだけでなく、診断や治療に用いられるため、非常に高い品質が要求されます。そこで、筆記・実技試験に合格したライセンス取得者だけが作業工程に就ける「ライセンス制度」を導入しました。

ほかにも、徹底した品質を守るため、作業者が確実に理解できる作業標準書の整備やリアルタイムでの監視体制の強化にも取り組んでいます。これらの取り組みを継続することで、お客さまに「安心・安全」を届けます。



「ライセンス制度」で高品質を維持

ものづくりは人づくり

オリンパスの高度技能者育成制度

高度なコンピューター数値制御の微細加工機が普及する現代でも、生産ラインの加工に人間が介在する限り、熟練の技が必要です。昨今、多くのメーカーで高度技能者の熟練の技を、次世代を担う後輩へ、いかに技能継承していくかが問われています。

オリンパスには、「人は製造の財産」との思想にもとづいた高度技能者育成制度があります。この制度は、創業の原点である顕微鏡をつくり上げる人材の育成・継承を意識した旧伊那工場(現・長野オリンパス)の「テクニカルマスター制度」が出発点でした。

“ものづくり”の現場には、必ず師匠が存在します。さまざまな技能が、徒弟制度の中で継承されてきました。とりわけ顕微鏡の歴史は、このノウハウなしには築かれなかったでしょう。受け継がれてきた優れた技能は、過去から現在へ、そして未来へと受け渡されていきます。



高度技能者育成の様子

生産革新活動

生産活動で革新を続けるためには、現場における問題点を発見し、その改善を推進できる人材を育成することが重要だと考えています。そこで、オリンパスは工場診断士を育成する仕組みをつくりました。

「人づくり」こそ、オリンパスの生産革新の根幹です。16人の工場診断士は、日本だけでなく、アジアや欧米の工場にも活動の場を広げています。「現地・現物・現実」に根ざし、日々改善・日々実践の生産革新活動は続きます。



工場診断活動の様子

## オリンパスは、大腸がんで亡くなる方々を ひとりでも減らしたいと願い、

「ブレイブサークル大腸がん撲滅キャンペーン」を積極的に支援しています。

日本全国で大腸がん検診・精密検査の受診勧奨や啓発活動を展開する「NPO法人ブレイブサークル運営委員会」。  
オリンパスは同NPO法人のオフィシャルサポーターとして、大腸がん撲滅キャンペーンを支援しています。

### オリンパスだからこそ始められた社会貢献

高齢化や生活習慣の欧米化などの理由により、日本では2人にひとりが「がん」になる時代になりました。中でもこの30年で6倍に増えている大腸がんは、早期発見・早期治療により約95%以上完治できるにもかかわらず、進行するまで自覚症状がほとんどなく、検診の受診率が30%以下(当時)であることが課題になっていました。しかし、日本では大腸がん検診の普及啓発を大規模に行うキャンペーン活動はありませんでした。

そのような中で、世界中の医療現場に内視鏡などの医療機器を供給しているオリンパスは、事業以外でも医療に対し何らかの社会貢献をしたいという思いを持っていました。大腸内視鏡が大腸がん検診における精密検査や治療にも使われることから、オリンパス社内には大腸がんを取り巻く現状について日頃から気にかけている社員が少なからずいました。そして、大腸がんで亡くなる方々をひとりでも減らしたいという願いをかなえるため、2007年2月に「ブレイブサークル大腸がん撲滅キャンペーン」を立ち上げました。

※出典:公益財団法人がん研究振興財団「がんの統計'15」

### 複数の企業が参加する活動から公益的な活動へ

活動名称の「ブレイブサークル」は勇気という意味を持つ「ブレイブ」、輪・仲間という意味を持つ「サークル」という言葉をつなげてつくった新しい言葉です。「大腸がんの現状にしっかりと向き合う勇気を持とう、そして大腸がん検診・精密検査受診の輪をひろめよう」というメッセージが込められています。

キャンペーンカラーには国際的な大腸がん啓発カラーである濃いブルー(青色)を使用しています。

大腸がん検診の対象者は多く、検診・精密検査受診の普及啓発活動はオリンパス1社だけが単独で推進していくには資金や人員、アイデアなどの面で限界があります。そのため活動開始時より、複数の企業や団体に対してブレイブサークル活動への参加を広く呼びかけてきました。

そして活動開始から半年後にはオリンパスを含む複数企業の社会貢献担当者が参加する任意団体BRAVECIRCLE運営委員会を立ち上げ、活動の推進母体になりました。2009年7月には行政と連携した公益的な活動を強化するため、任意団体は解散し、「NPO法人ブレイブサークル運営委員会」が設立されました。日本全国で大腸がん検診・精密検査の受診勧奨や啓発活動を展開するようになりました。

### がん検診・精密検査受診の啓発活動へ

2007年、活動初期の「ブレイブサークル大腸がん撲滅キャンペーン」関係者は、大腸がん検診・精密検査の普及啓発をテーマとした活動を立ち上げたものの、それまで、がん検診の普及啓発活動を本格的に行った経験がなかったため、はじめは何から着手してよいのかわからない状況でした。そのため当初は、ほかの疾患啓発を参考に、テレビCMや新聞広告・市民フォーラム中心の広告活動を展開していました。

2007年6月に国が「がん対策推進基本計画」を策定し、大腸がんを含む「がん検診受診率を50%以上にする」ことを目標として掲げました。その後、NPO法人ブレイブサークル運営委員会のメンバーが議論を重ねた結果、大都市だけでなく、がん検診の実施主体である地方自治体と協力して、全国各地で市民参加型の活動を行う方針へと転換しました。

都道府県のがん対策部門と連携して、公共施設への大腸がん検診・精密検査受診普及啓発ポスターの掲示、週末の商業施設での市民参加型イベントやウォーク大会の開催、市区町村が検診案内を送付する際に同封する大腸がん検診・精密検査説明冊子の提供など、受診率向上に向けた取り組みを実施するようになりました。

### 大腸がん検診・精密検査の受診率向上に向けて

このように、市民参加型イベントだけではなく、地道な大腸がん検診・精密検査受診の普及啓発活動も継続することにより、一般市民の間で徐々に大腸がんに対する関心が高まりつつあります。また、NPO法人ブレイブサークル運営委員会が活動を展開しているいくつかの市区町村では大腸がん検診受診率向上の成果が表れ出しています。NPO法人ブレイブサークル運営委員会が掲げる「日本初の官民連携による、がん検診啓発活動の成功モデルづくり」という中期目標がいよいよ実現しつつあります。

オリンパスは、「ブレイブサークル大腸がん撲滅キャンペーン」のオフィシャルサポーター(公式協賛社)の一員として、また、NPO法人ブレイブサークル運営委員会の寄付者として、同NPO法人が全国の行政と連携して展開する、大腸がん検診・精密検査啓発イベントや受診勧奨用資材の制作・配布を資金面で支援しています。また、オリンパス社員が同NPO法人の大腸がん検診・精密検査啓発イベントなどに個人の意志で自主的に参加することで活動を支援しています。

オリンパスは、これからも全国の行政との連携を強化するNPO法人ブレイブサークル運営委員会の活動を積極的に支援することで、大腸がんで亡くなる方々をひとりでも減らしたいという願いを実現させていきます。



7月14日(ナイシ)は、「内視鏡の日」。  
「内視鏡検査に関する意識アンケート」を  
オリンパスは毎年実施しています。

オリンパスは世界を代表する内視鏡メーカーとして、  
がんなどの早期発見、早期治療に役立つ内視鏡検査について、  
毎年意識調査を行い、その結果を公表しています。

### 内視鏡の日<sup>\*1</sup>



オリンパスは、内視鏡および内視鏡検査の理解促進を目的とした「内視鏡検査に関する意識アンケート」の結果を、内視鏡の日に合わせて公開しています。

<sup>\*1</sup> 内視鏡医学のさらなる発展と普及を願い、(財)内視鏡医学研究振興財団が7月14日を「内視鏡の日」と制定しました

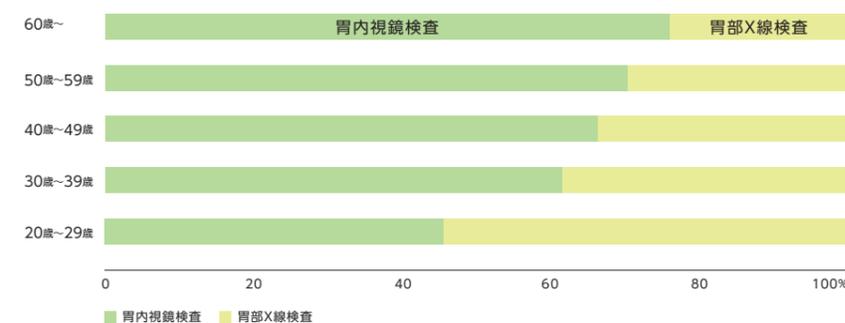
### おなかの健康ドットコム

アンケート調査結果の詳細は、健康応援ポータルサイト「おなかの健康ドットコム<sup>\*2</sup>」でもご覧いただけます。一般の方々に、内視鏡検査について少しでも理解を深めてもらおうと、オリンパスが運営しているウェブサイトです。医師監修のもと、おなかの病気やがん検診、内視鏡による検査や治療などに関する情報提供を、幅広く行っています。

<sup>\*2</sup> URL: <http://www.onaka-kenko.com>

### Q：胃がんの一次検診において、胃内視鏡検査と胃部X線検査のどちらを選択しますか？

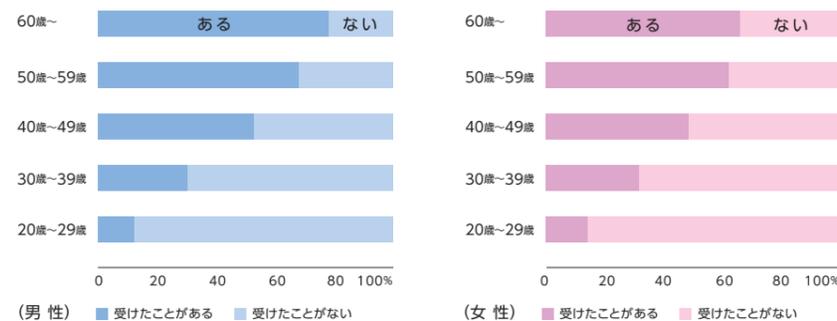
胃内視鏡検査を選択する人の割合の割合 全体64%



全体で64%の人が胃内視鏡検査を選択すると回答しました。検診対象世代(50歳以上)では、胃内視鏡検査を選択する人が7割を超えています。

### Q：これまでに上部内視鏡検査(食道・胃・十二指腸)を受けたことがありますか？

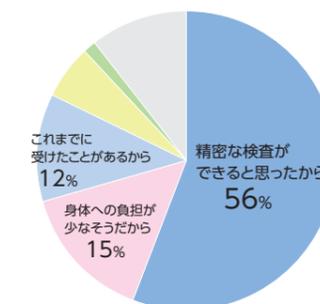
受診経験者の割合 全体47% (男性56%、女性39%)



全体のほぼ半数の人が受診経験があると回答しました。2016年度から胃がん検診の対象年齢となる50歳以上に限定すると、男性73%、女性63%と高い比率になっています。

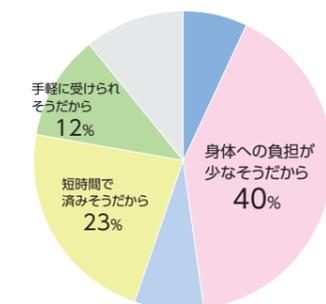
### Q：上記の選択理由として、あなたの考えに近いものは？

■ 胃内視鏡検査を選択した方



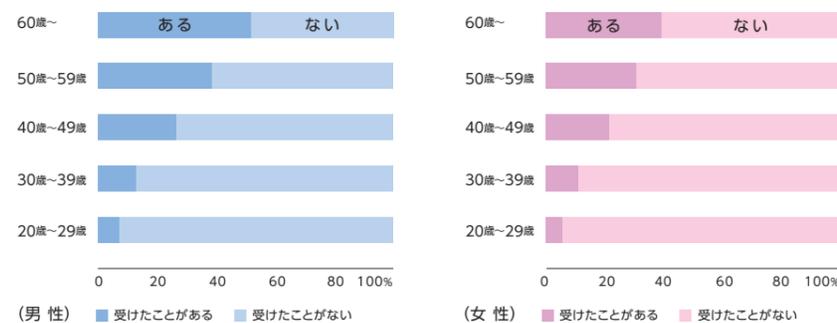
- 精密な検査ができると思ったから
- 身体への負担が少なそうだから
- これまでに受けたことがあるから
- 短時間で済みそうだから
- 手軽に受けられそうだから
- その他

■ 胃部X線検査を選択した方



### Q：これまでに大腸内視鏡検査を受けたことがありますか？

受診経験者の割合 全体24% (男性32%、女性17%)



大腸がん検診(便潜血検査)の対象年齢となる40歳以上に限定すると、男性39%、女性26%となりました。どの年代を比べても男性の割合が女性を上回っています。

### アンケート結果分析・解説

2016年度から、対策型胃がん検診(住民検診)の検査方法として、胃内視鏡検査が新たに推奨されました。胃部X線検査と胃内視鏡検査のどちらかを選択可とする、という指針が厚生労働省より出されています。胃内視鏡検査は、胃の中を直接観察することができる検査なので、微小な病変部の発見には優れています。アンケート結

果でも、胃内視鏡検査を選んだ理由として、「精密な検査ができると思ったから」と回答する方が数多くいらっしゃいました。胃がん、大腸がんともに早期の場合は自覚症状がありませんが、その段階で発見し治療すれば高い確率で治る病気です。検診対象年齢<sup>\*3</sup>になりましたら、検査受診を心がけていただきたいと思います。



田坂記念クリニック 山口芳美 先生

<sup>\*3</sup> 胃がん検診:50歳以上(ただし、当分の間、胃部X線検査については40歳代の者に対して毎年実施可)、大腸がん検診:40歳以上  
本ページに掲載しているアンケート結果は、2016年度のもです。

業績ハイライト

(単位:百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
売上高	764,671	804,578	748,050
営業利益	90,962	104,464	76,487
経常利益	72,782	90,898	62,149
当期純利益	-8,737	62,594	78,191

事業別業績

(単位:百万円)

		2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
医療	売上高	558,348	608,927	575,285
	営業利益	124,894	140,220	115,482
科学	売上高	103,880	101,608	93,227
	営業利益	6,837	8,482	5,280
映像	売上高	83,825	78,284	65,574
	営業利益	-13,870	-2,064	498
その他	売上高	18,618	15,759	13,964
	営業利益	1,190	-5,800	-4,621
全社消去	売上高	—	—	—
	営業利益	-28,089	-36,374	-40,152

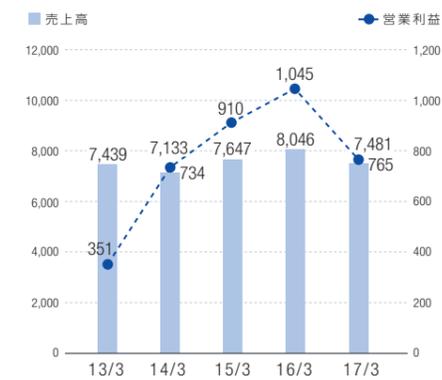
地域別業績(仕向地別)

(単位:百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
	売上高	売上高	売上高
日本	161,432	163,070	159,610
北米	249,896	282,108	255,651
欧州	195,223	195,606	174,859
アジア・オセアニア	139,274	145,986	143,542
その他	18,846	17,808	14,388

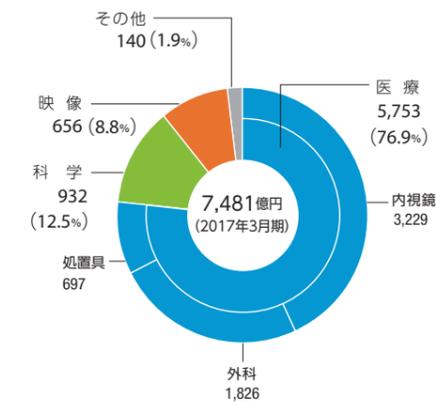
売上高/営業利益推移

(単位:億円)



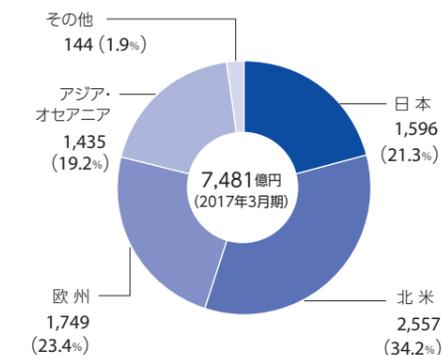
事業別売上高構成比

(単位:億円)



地域別売上高構成比

(単位:億円)



[欧州の主要グループ会社]

- ① Olympus Europa SE & Co. KG (共通)
- ② Olympus Winter & Ibe GmbH (医療)
- ③ Olympus Deutschland GmbH (医療・科学・映像)
- ④ Olympus Soft Imaging Solutions GmbH (科学)
- Olympus France S. A. S. (医療・科学・映像)
- ⑤ KeyMed (Medical & Industrial Equipment) Ltd. (医療・科学・映像)
- Gyrus Medical, Ltd. (医療)
- Olympus Czech Group, s.r.o. (医療・科学・映像)
- Olympus Moscow Limited Liability Company (医療・科学・映像)

[日本の主要グループ会社]

- オリンパス(株) (共通)
- オリンパスメディカルシステムズ(株) (医療)
- オリンパスメディカルサイエンス販売(株) (医療・科学)
- 長野オリンパス(株) (医療・科学)
- 会津オリンパス(株) (医療)
- 青森オリンパス(株) (医療)
- 白河オリンパス(株) (医療)
- ティームディクス(株) (医療)

- オリンパスデジタルシステムデザイン(株) (その他)
- オリンパステルモバイオマテリアル(株) (その他)
- オリンパスメモリーワークス(株) (その他)
- オリンパスロジテックス(株) (その他)
- オリンパスサポートメイト(株) (その他)
- (株)AVS(医療)
- オリンパスシステムズ(株) (その他)
- オリンパスRMS(株) (その他)

[アジアの主要グループ会社]

- ① Olympus Corporation of Asia Pacific Limited (共通)
- Olympus Australia Pty Ltd (医療・科学)
- Olympus (China) Co., Ltd. (科学・映像)
- Olympus (Beijing) Sales & Service Co., Ltd. (医療)
- Olympus Hong Kong and China Limited (医療・映像)
- ② Olympus (Guangzhou) Industrial Co.,Ltd.(医療・科学)
- ③ Olympus (Shenzhen) Industrial Ltd. (映像)
- Olympus Trading (Shanghai) Limited (その他)
- Olympus Medical Systems India Private Limited. (医療)
- Olympus Korea Co., Ltd. (医療・科学・映像)
- Olympus Singapore Pte Ltd. (医療・科学)
- Olympus (Thailand) Co., Ltd. (医療・科学・映像)
- ④ Olympus Vietnam Co., Ltd. (医療・映像)
- Olympus Medical Systems Vietnam Co.,Ltd. (医療)

[米州の主要グループ会社]

- ① Olympus Corporation of the Americas (共通)
- Olympus America Inc. (医療・科学・映像)
- ② Olympus Scientific Solutions Americas Corp. (科学)
- ③ Gyrus ACMI, Inc. (医療)
- Olympus Latin America Inc. (医療・科学)



Olympus Europa SE & CO. KG (ドイツ)



Olympus Corporation of Asia Pacific Limited (香港)



オリンパス株式会社 (東京・本社)



Olympus Corporation of the Americas (米国)

オリンパス株式会社

[本社]	〒163-0914 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス
[代表者]	代表取締役社長執行役員 笹 宏行
[設立年月日]	1919 (大正8)年10月12日
[資本金]	124,520百万円(2017年3月31日現在)
[連結従業員数]	34,687人(2017年3月31日現在)



**OLYMPUS®**

掲載されている内容を予告なく変更する場合があります。

環境配慮型の用紙およびインクを使用しています。

2017年7月発行 Printed in Japan

N8600826